

## 第2回 機能油脂懇話会開催に当たって

代表世話人 菅野道廣

12年間続きました「CLA懇話会」は、昨年から「機能油脂懇話会」へと名称を変更し、その際の挨拶に「機能油脂懇話会－CLA懇話会のレボリューション」と書きました。新しい夢の進展を期して第1回懇話会では「機能性油脂、今後の展望」と題するシンポジウムを開催し、多くの知見に接することができました。第2回懇話会では、名称変更を機に、若い方々の発想で企画・立案された「医・薬・農から見た機能性脂質の顔」のテーマでシンポジウムを開く運びにしております。脂質の機能性の分野でも、研究の学際的領域化が進展していますが、閉鎖的な思考を打破して、広い視野から俯瞰し、真の意味での「ものの見方」を学ぶ格好の機会になると確信しています。計画を立てられた宮崎大学の先生方を始め、関係者の方々に心からお礼申し上げます。

特徴ある生理活性を有する脂質成分は数多く知られ、いろんな専門誌を賑わせていますが、健康との関連で実用化されているものは限られています。特定保健用食品を例に挙げても、EPA、中鎖脂肪酸と植物ステロールの3種しかありません。この余りにも大きなギャップは、どのような原因（あるいは理由）によるものでしょうか。まず考えられることとしては、研究者の市場化意識の希薄を指摘することができるように思われます。基礎研究で満足し、実用化は他の人に任せてしまうような傾向にあるのではないのでしょうか。研究者自身が最大の理解者である筈ですから、もっと積極的に対応して頂きたいものです。

この場合、最も基本的な研究理念の柱の一つとして「栄養学的思考」が不可欠であることを強調しておきたいと思います。最近の機能性成分研究は、ヒトの身体全体のレベルでの対応・理解が必ずしも十分でないように思われます。その上に、本来あまり強くはない機能性成分の効果を、その成分だけに期待して満足しているような取り組みが多いように見えます。食の効果は、いろんな成分の総合的効果として発現することが忘れられてはいないのでしょうか。

今回の懇話会での見聞が、応用の面でも繋がることを大いに期待しております。最後になりましたが、準備に携われた先生方、並びにご支援を頂いた日清オイリオグループ株式会社に深甚の謝意を表します。